

平成27年1月28日

～広島大学インキュベーション研究拠点紹介～
学習システム促進研究センター

[研究機能]

本学では、7月からの定例記者会見において「広島大学研究拠点」の紹介を行っています。第7回目となる今回は「学習システム促進研究センター」の研究概要についてご紹介いたします。

※ 広島大学研究拠点

広島大学では、研究において既に世界的水準にある自立型の研究拠点を含め、世界トップクラスの研究大学として、国際展開力・発信力を強化していくため、その中心的役割を担う「研究拠点」、10拠点を選定しています。これらの研究拠点には重点支援を行い、特に、活発な国際研究活動を通じた国際研究ネットワークの形成により国際発信力を向上し、本学の国際的評価の向上に寄与することを期待しています。

【お問い合わせ先】

(本拠点に関すること)

大学院教育学研究科 社会認識教育学講座

教授 池野 範男

TEL: 082-424-6799

(研究拠点紹介に関すること)

学術・社会産学連携室広報グループ 楠本

TEL:082-424-6762 FAX:082-424-6040

学習システム促進研究センター(RIDLS)

Research Initiative for Developing Learning Systems



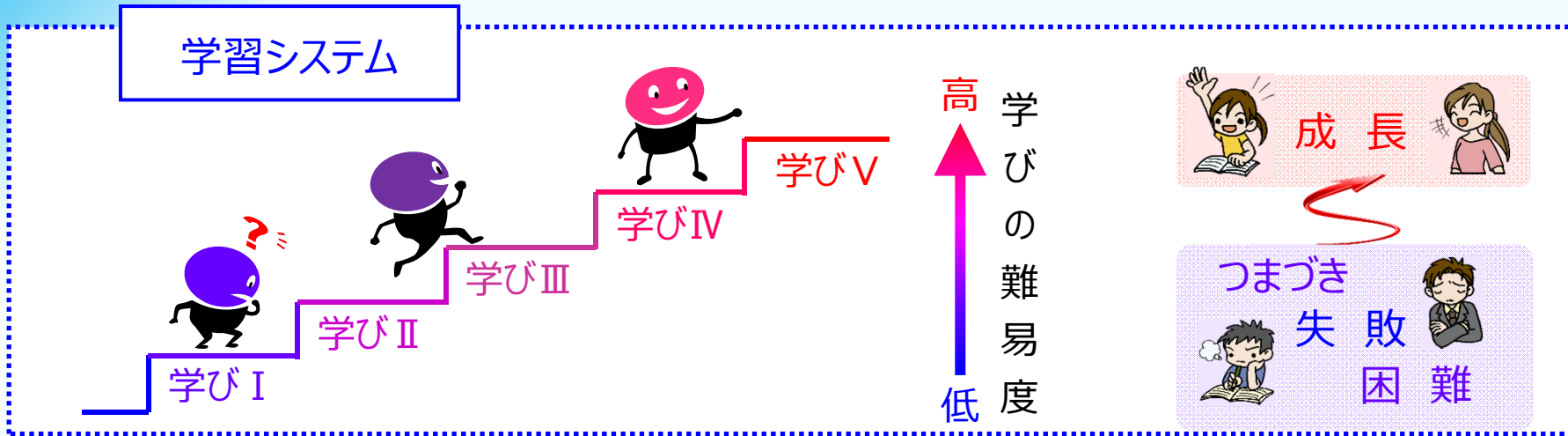
みんなのための教育（万人のための教育）

Education for ALL（ユネスコ）

だれもがどこでも学ぶことができそれを保証することを目指す

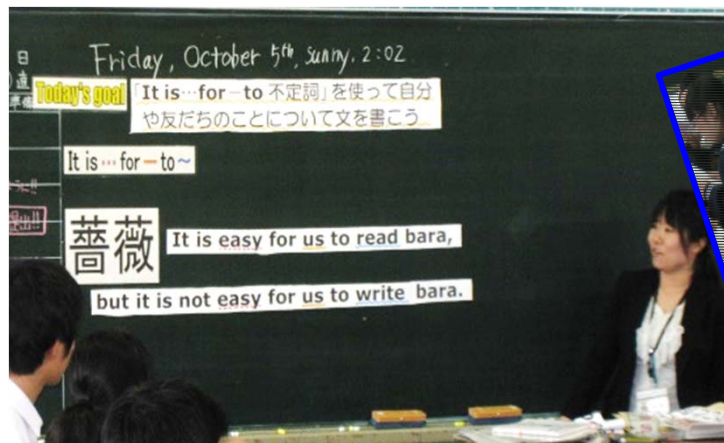
研究拠点リーダー 教育学研究科 池野範男

1. 学習の実際とそのシステム



学習の実際

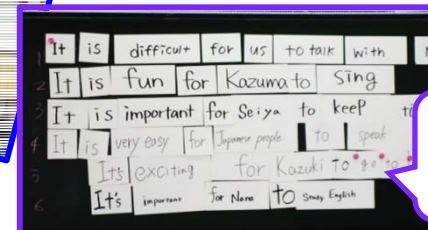
中学校 英語 : 「It is 形容詞 for 目的語 to 動詞」の作成



様々な子どもの姿

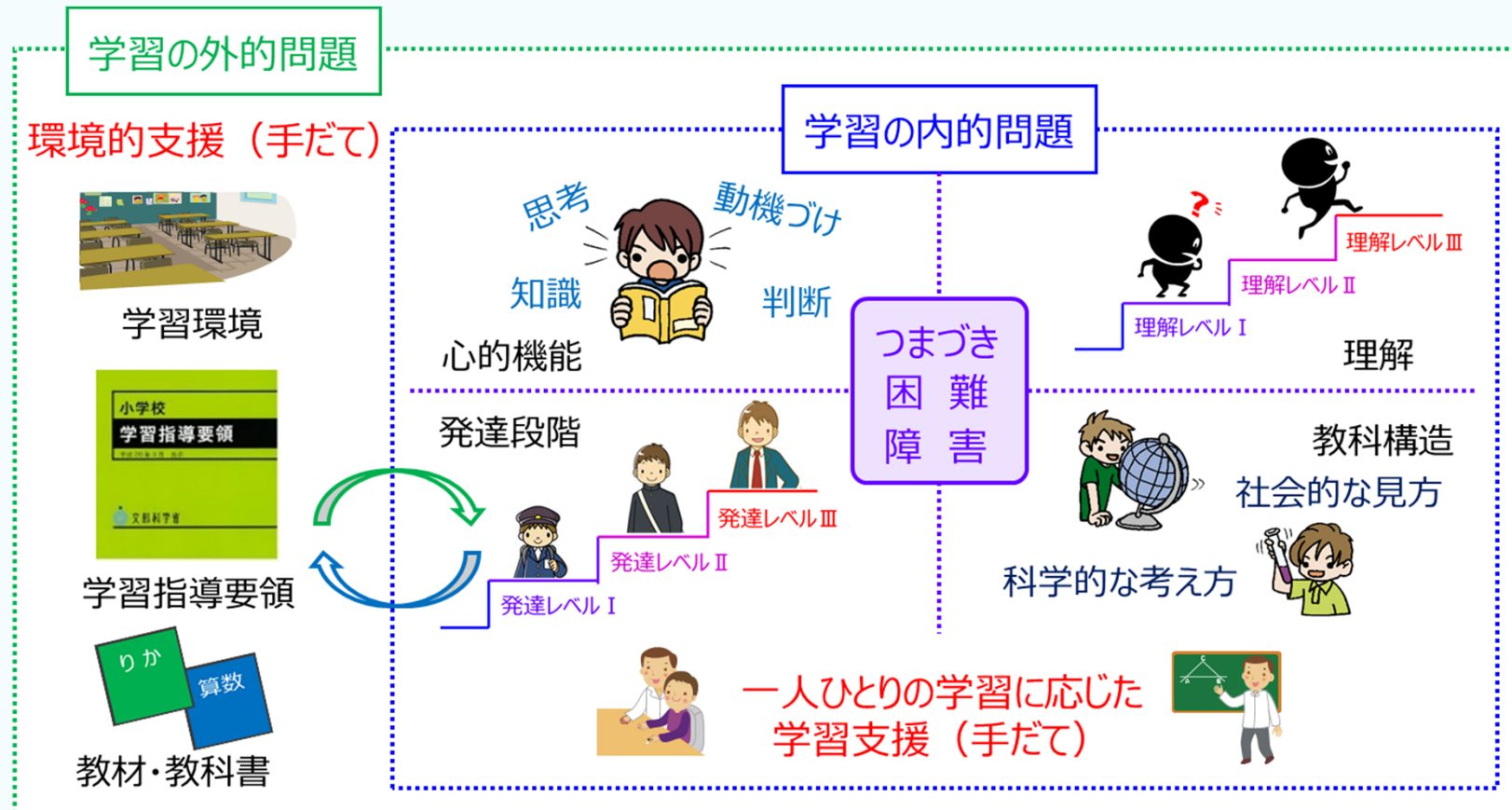
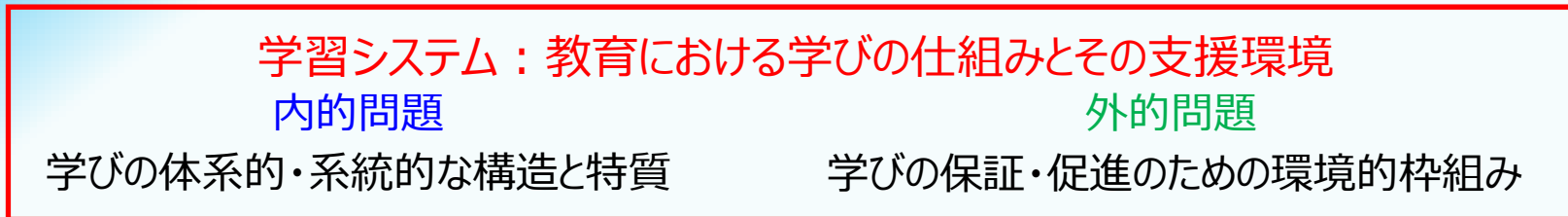


学びあい



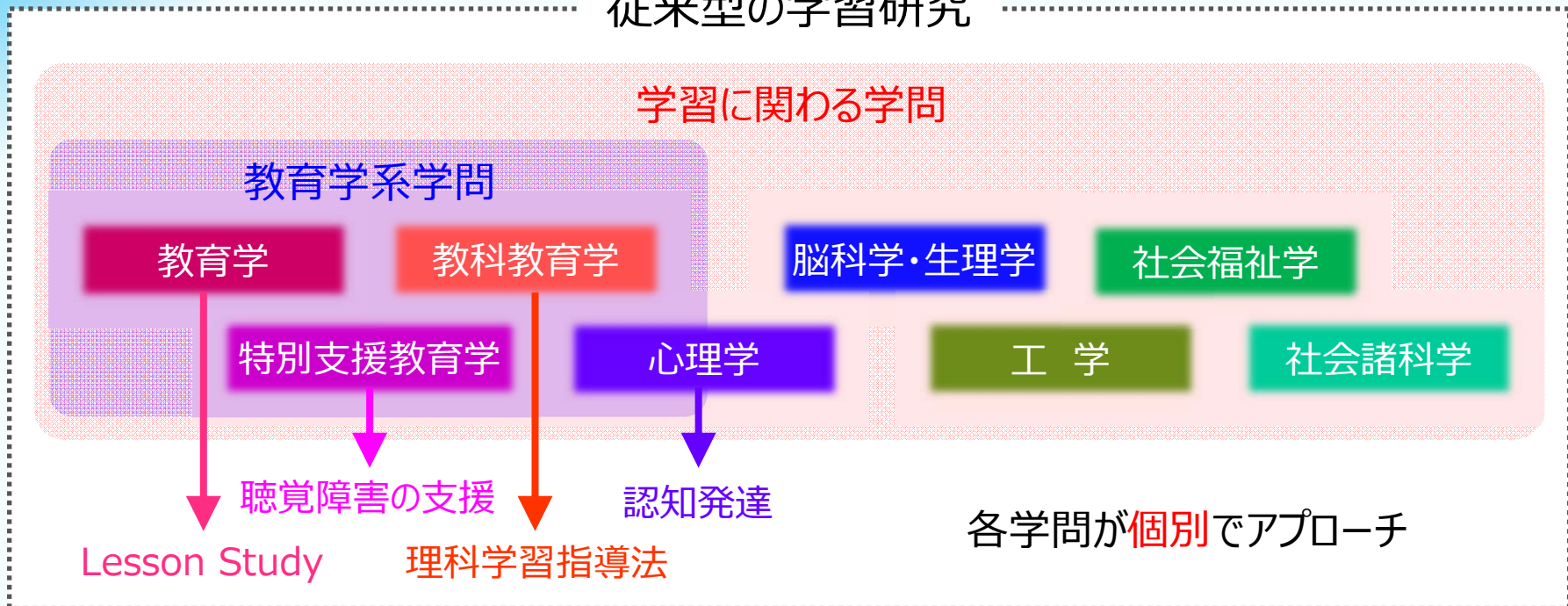
教師の支援

2. 学習システムの構造

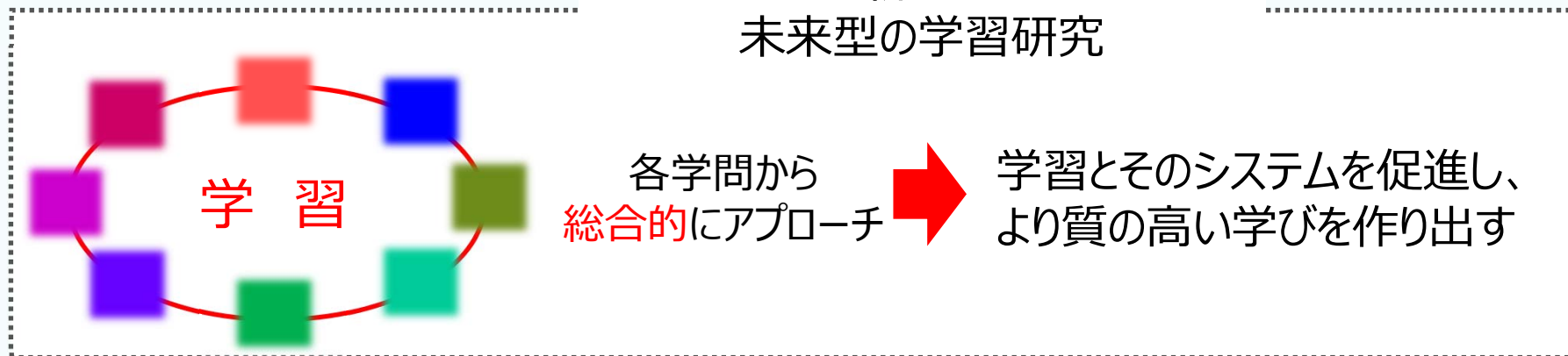


3. 学習システムの研究

従来型の学習研究



新しい 未来型の学習研究



4. 戦略的研究拠点

(1) つまづき・困難

つまづき
困難
障害

原因の究明
解決策の探究

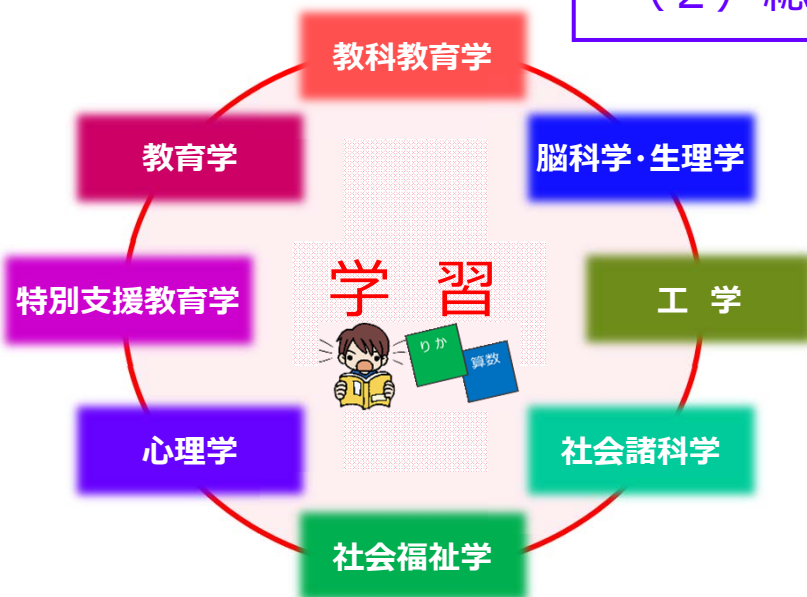
中学校 体育：ハードル走



足上げ練習

低いハードル

(2) 総合的な知の融合



各学問から複合的にアプローチ

様々な視点から協同的に学習を追求

多分野融合による学習システムの解明

5. 研究の2つの柱と組織

学習システム促進研究センター



- ① 学習システム研究の世界的な展開
- ② 次世代人材育成および育成方法のモデル化



研究統括 (リーダー)

ユニット責任者会議

研究開発ユニット

学習システム
基礎研究ユニット

学習システムの
原理・理論の
構築

学習システム
比較研究ユニット

海外先端研究の
解明と
研究成果の発信

学習システム
開発研究ユニット

カリキュラム・教材
等の
学習システム開
発・促進

人材育成ユニット

学習システム
構築人材育成
ユニット

基礎・比較・
開発研究を
推進する人材の
育成

外国人講師、共同研究者、留学生

アジア・オセアニアネットワーク



共同研究者
若手研究者・院生の留学

欧米中心ネットワーク

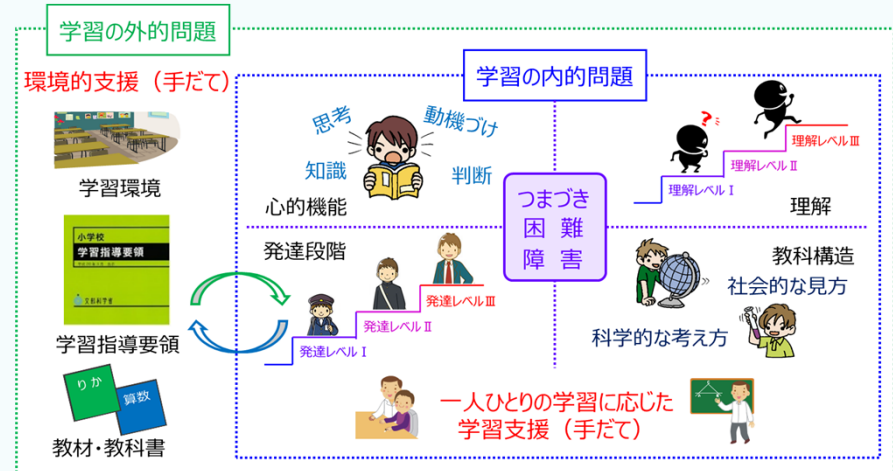


ユニット間
相互交流

6. 研究拠点の事業目的

①あらゆる教育における学習の
系統的・体系的構造の究明

②一人ひとりの学習を促進するための
支援システムの開発



③教育・学習研究の世界的ネットワークの形成



④中堅・若手研究者および大学院生の人材育成とグローバル化の促進



7. 2014年—2015年の事業

①講演会シンポジウム

2014年度

- 1 キックオフ講演会
- 2 教員養成教育シンポジウム
- 3 世界の授業研究
- 4 ワーキングメモリーシンポジウム
- 5 理科学習国際シンポジウム
- 6 特別支援教育：読み書きへの支援
- 7 シティズンシップ教育国際シンポジウム
- 7 先行学習ワークショップ

2015年度

- 1 日本の教育の方向：講演会
 - 2 特別支援と小学校英語教育WS
 - 3 道徳教育、人格教育、徳教育国際シンポジウム
 - 4 学習のための評価国際セミナー
- ・ ・ ・

②共同研究

専門科学者の真正な研究学習

③研究成果の公開

- 1 HPによる成果発表
- 2 E-Journal

8. 本事業(RIDLS)の目標と目指しているもの

我が国の教育基盤の強化、教育効果の増大、教育のシンクタンク
みんなのための学習 (Learning for ALL)



誰でもどこでも学べる教育の実現



キックオフ 講演会

学習, 学習科学: 教育への適用



- 特別講演 1 森敏昭先生 (広島大学教育学研究科)
「学習科学が描く21世紀型授業のデザイン」
- 特別講演 2 白水始先生 (国立教育政策研究所)
「学習科学で学びを繋ぐ」
- 司会進行 湯澤正通先生 (広島大学教育学研究科)

- 【日時】** 2014年7月3日(木)13時-17時30分
- 【場所】** 広島大学教育学研究科第一会議室
- 【日程】**
- 13:00-13:10 開会:研究科長宮谷先生
挨拶, 池野代表趣旨説明
 - 13:10-14:30 森先生講演
 - 14:30-14:50 質疑応答
(休憩)
 - 15:00-16:20 白水先生講演
 - 16:20-16:40 質疑応答
 - 16:40-17:20 全体討論
 - 17:20-17:30 閉会:まとめ 湯澤先生

- 【参加費】** 無料
- 【申し込みの方法】**
どなたでもご参加いただけます。

6月30(月)までに下記のところへ
お申し込みください。
Mail: higyoto@hiroshima-u.ac.jp
または
Tel: 082-424-6872
広島大学大学院教育学研究科
日本語教育学講座
費 暁東



森 敏昭(もり としあき)先生

広島大学大学院 教育学研究科 学習開発学講座
教授。
専門は教育心理学, 認知心理学, 文学博士。
主要著書は『学習科学ハンドブック』(共監訳), 『認知心理学講座2「記憶と知識」』(共著)等。
日本心理学会編集委員, 日本教育心理学会理事等を
歴任。



白水 始(しろうず はじめ)先生

国立教育政策研究所 初等中等教育研究部
総括研究官。
専門は学習科学, 認知科学, 教育工学, 博士(認知科学)。
主要著書は『ヒューマン・ロボット・ラーニング』(共著)等。
日本認知科学会奨励論文賞(平成21年9月), 発表論文賞(平成22年12月)受賞。

【お問い合わせ】 広島大学大学院教育学研究科 社会認識教育学講座

池野 範男 (Tel: 082-424-6799 Mail: nikeno@hiroshima-u.ac.jp)

講演会

- 教員養成課程の大学生が直面しやすい「つまずき・困難」とは何か
- 博士課程の大学院生は「つまずき・困難」の克服にどのように寄与できるか

登壇者 Dr. Sherry L. Field (Arkansas Tech University, USA)
Dr. Elizabeth Bellows (Appalachian State University, USA)

通 訳 小川正人先生(環太平洋大学)

- 【日 時】 2014年9月18日 (木) 9時～12時
【場 所】 広島大学教育学研究科第三・四会議室
【プログラム】 09:00～09:10 開会の言葉, 講師紹介
09:10～10:10 講演 第1部
10:10～10:20 休憩
10:20～11:20 講演 第2部
11:20～11:50 質疑応答
11:50～12:00 まとめ, 閉会の言葉
【参加申込】 下記の費曉東までお申し込みください



Dr. Sherry L. Field

テキサス州出身。テキサス大学でCurriculum and InstructionのPh.D.を取得。コロラド大学, ジョージア大学, テキサス大学オースチン校 (教育学部副学部長) を経て, 2012年9月よりアーカンソー工科大学教育学部長。2012年, 全米社会科協議会の Jean Dresden Grambs Distinguished Career Research in Social Studies Award を受賞。教育史・初等社会科教育ならびに初等教員養成研究の領域で米国を代表する研究者の1人。編著に, Explorations in curriculum History (Information Age Pub Inc.)がある。

Dr. Elizabeth Bellows

テキサス州出身。公立学校教員を9年勤めた後, Dr. Fieldの指導のもとでPh.D.を取得。博士論文の題目は“ Experiencing Crisis in Schools: Examining Preservice Teachers’ Reflections on September 11 and Their Notions of Citizenship”

博士課程の在籍中から教職課程学生や教育実習生の指導にたずさわる。スティーブン・F・オースティン州立大学講師を経て, 現在はアパラチア州立大学講師として初等および中等の社会科教育法などの講義を担当する。



【問い合わせ】 広島大学大学院教育学研究科

日本語教育学講座 費 曉東 higyoto@hiroshima-u.ac.jp 082-424-6872

社会認識教育学講座 草原 和博 kusahara@hiroshima-u.ac.jp 082-424-6800



RIDLS



日本教育方法学会 第50回記念大会
 大会校企画「世界の授業研究」
 主催 日本教育方法学会(NASEM)
 共催 広島大学学習システム促進研究センター(RIDLS)

参加登録不要

日時

2014年10月10日(金)14時~17時

会場

広島大学大学院教育学研究科第三・四会議室
(管理棟2階)

- ▼ 「世界の授業研究」がどのような背景のもとで、どのように展開されてきているのか、本企画は、小山氏、ルイス氏、リム氏からそれぞれ「授業研究」の実際の紹介をしていただき、それぞれの提案者の背景や問題意識、研究の取り組みなどを深めていきます。
- ▼ 本企画は、広島大学教育学研究科「学習システム促進研究センター(Research Initiative for Developing Learning Systems: RIDLS)」の共催のもとで、学会員の皆さまはもちろんのこと、同企画に関心のある方にもご出席いただける趣旨で企画しております。
- ▼ 当日の会では、提案者より、授業研究の様子に関して、具体的なVTRや写真を用い、報告者の経験や各国の教育背景などをご報告いただきます。

プログラム

司会進行:池野 範男(広島大学)
木原成一郎(広島大学)
(英語通訳付)

14:00~14:10	企画説明
14:10~14:40	小山先生 VTR と説明
14:40~15:00	質疑応答
15:00~15:30	ルイス先生 VTR と説明
15:30~16:20	リム先生 VTR と説明
16:20~17:00	質疑応答



小山 正孝

教授、博士(教育学)。
広島大学大学院教育学研究科副研究科長・教育学部副学部長に加えて教育研究評議会評議員を併任。
主な研究分野は数学教育方法学、数学教育学、数学教育心理学等。



Catherine Lewis

Currently director of lesson study research projects funded by NSF and IES and a senior research scientist at Mills College. Catherine Lewis comes from four generations of public school teachers. Fluent in Japanese, she has conducted research in Japanese and U.S. schools for 25 years.

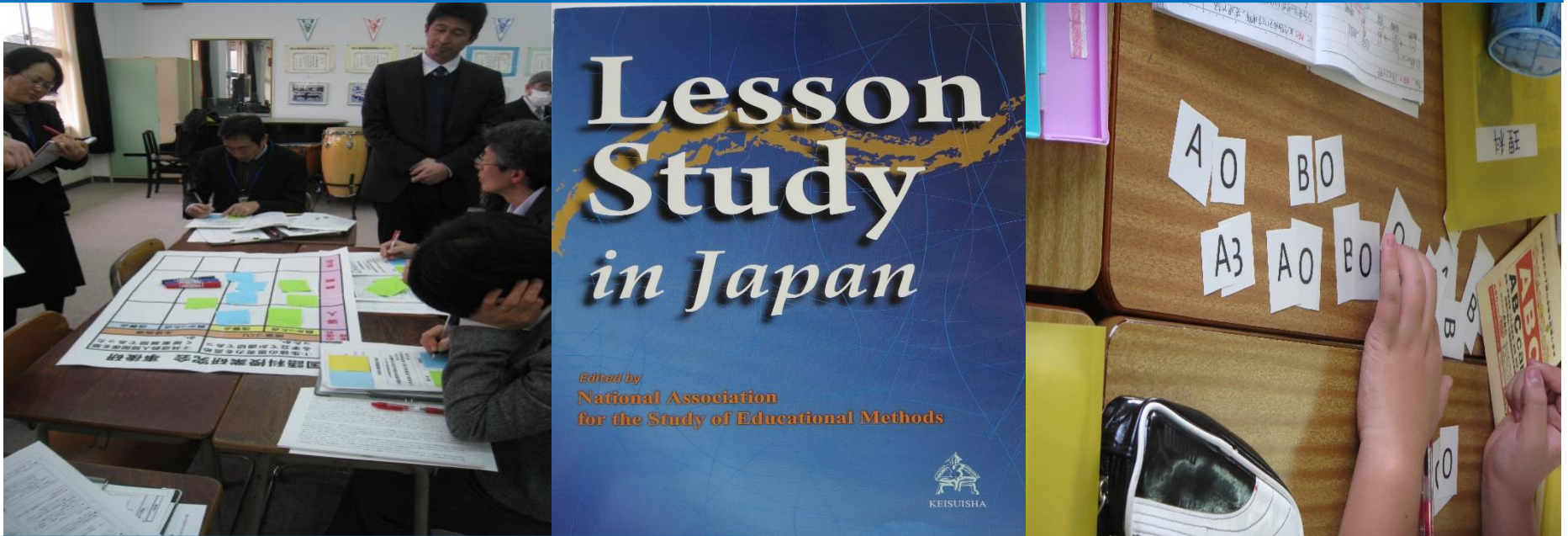


Edmund Lim

Edmund Lim W. K. is a Director of Educare International Consultancy. Educare is the co-operative of the Singapore Teachers' Union, the largest teachers' union in Singapore. This year, Edmund has conducted workshops and talks for school leaders from Russia, Singapore, Hong Kong, Indonesia and the Philippines.



教育方法学をデザインし直す —Lesson Study in Japan をめぐって—



● 日時

2014年10月11日(土)15:50~18:20

● 会場

広島大学教育学部 L205 講義室

▼司会者

大野 栄三(北海道大学)
久野 弘幸(名古屋大学)

▼提案者

的場 正美(東海学園大学)
日本の授業研究は、今なにが問われているか
Rethinking the Dilemma of Lesson Study: Accountability and Professional Responsibility
Catherine Lewis(Professor, Mills College, Oakland, CA, USA)
Lesson Study in the United States: Implications for Japan?
アメリカにおける授業研究: 日本への示唆
Edmund Lim (Director of Educare International Consultancy, Educare Co-operative Limited)
Lesson Study & Its Growth: Points to consider for the journey ahead
授業研究とその発展: 将来の旅路を考える上での要点
小山 正孝(広島大学)
日本における授業研究 —数学教育事例—
Lesson Study on Primary Mathematics Education in Japan

自由参加・
参加登録不要

● 趣旨

明治時代からの伝統を有する日本の授業研究は、Lesson Study として 1990 年代以降、世界各国に広がり、各国の文脈で多様な授業研究が展開されている。

そうした状況をふまえ、日本教育方法学会は『日本の授業研究(上・下)』を学文社より 2009 年に、それをもとにした英語版“*Lesson Study in Japan*”を渓水社より 2011 年に刊行した。それらの成果をもとに、本国際シンポジウムでは将来の授業研究と教育方法学を展望するために、世界で進展している授業研究の知見とこれまでの日本の研究蓄積を視野に入れながら、日本の授業研究の理論、理念、内容、方法、手法を多様な視点から捉えなおす。

的場氏は趣旨を説明し、小山氏は数学教育の授業研究を紹介する。日本の授業研究を他の国の経験からとらえ直すために、国際的に著名な2人の方をお招きした。アメリカにおいて Lesson Study を展開しているルス氏は、アメリカの授業研究から日本の授業研究にとっての意味を問い直す。国家規模で授業研究を展開しているシンガポールのリム氏のタイトルの journey には終わりのない継続的な改革の意味を読み取ることができる。彼は、そのような授業研究の発展と将来を考える上での要点に焦点を当てる。

ワーキングメモリ理論と発達障害

—環境設定から学習・就業支援へ—

ここ数年、発達障害に対する支援方法の研究も進み、発達障害を抱える児童・生徒が落ち着いて授業を受けるための環境が整いつつあります。それとともに、次に問題になるのが、発達障害を抱える児童・生徒の学力をどのように伸ばし、また、将来の就業につなげるかです。この問題に対して、我が国でもワーキングメモリ理論の観点からの研究が進みつつあります。

本シンポジウムでは、ワーキングメモリの理論の最近の研究動向を踏まえつつ、発達障害を抱える児童・生徒に対する学習・就業支援のアプローチを報告し、議論します。

日時：2014年 10月27日(月) 13:00～16:00

場所：広島大学大学院教育学研究科第一会議室

参加費：無料

時間	内容
13:00-13:10	主催者挨拶および企画説明(司会進行:若松昭彦(広島大学大学院))
13:10-13:40	「ワーキングメモリ・実行機能研究の最前線」齊藤 智(京都大学大学院)
13:40-14:10	「発達障害を抱える児童生徒への個別支援」河村 暁(発達ルーム そら)
14:10-14:40	「発達障害を抱える児童生徒へのクラスの中で支援」湯澤正通(広島大学大学院)
14:40-15:10	「発達障害を抱える生徒への就業支援」湯澤美紀(ノートルダム清心女子大学)
15:10-15:30	指定討論 川合紀宗(広島大学大学院)
15:30-16:00	質疑

【場所案内】

開催地：〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号
建物：広島大学 教育学部 管理棟 2階
交通アクセスなどの詳細な情報は、広島大学ホームページを参照してください。

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/higashihiroshima/>
当日、大学内の駐車場は利用可能です。

【申し込みの方法】

どなたでもご参加いただけます。10月24(木)までに下記のところへお申し込みください。

Mail: higyoto@hiroshima-u.ac.jp または ☎082-424-6872
広島大学大学院教育学研究科担当助教 費暁東
【お問い合わせ】

シンポジウム責任者 教育学研究科 湯澤正通
☎082-424-6773 Mail yuzawa@hiroshima-u.ac.jp



学習システム促進研究センター (RIDLS)

外国人招聘セミナー

CHILDREN'S LEARNING IN SCIENCE

日時

2014年12月11日(木)

15:00 ~ 18:00

場所

広島大学大学院教育学研究科 L 202 教室

プログラム

15:00~15:10 開会の言葉、講師紹介

15:10~16:20 特別講義 第1部 (質問 10分)

(Professor Ryder: Students' Ideas about the Nature of Science)

16:20~16:30 休憩

16:30~17:40 特別講義 第2部 (質問 10分)

(Professor Viiri: Quality of Instruction in Physics
Comparing Finland, Germany and Switzerland)

17:40~17:55 セミナー全体の質疑応答

17:55~18:00 閉会の言葉

主催：学習システム促進研究センター

共催：自然システム教育学講座

次世代科学教育プロジェクト研究センター

(通訳あり)

 広島大学

登壇者



JIM RYDER 教授

イギリス：リーズ大学

リーズ大学教授、および同大学理
数教育研究センター(CSSME)長。
ジャーナル *STUDIES IN SCIENCE
EDUCATION* 誌の編集長や欧州
科学教育研究協会 ESERA の理
事も務める。



JOUNI VIIRI 教授

フィンランド：ユヴァスキュラ大学

ユヴァスキュラ大学教授、および同
大学教育学部副学部長。フィンラ
ンドを代表する教師教育研究者の
1人。

問い合わせ

広島大学大学院教育学研究科

自然システム教育学講座

磯崎 哲夫

☎ 082-424-6812

✉ isozaki@hiroshima-u.ac.jp

読み書き困難のある児童生徒への 学習支援

後援: 国立大学法人障害児教育関連センター連絡協議会
日本ワーキングメモリ学会発達障害分科会

趣旨

グローバル化の進展など、急速に社会が変化中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質がより一層求められています。しかし、近年の国内外の学力調査の結果などから、日本の児童生徒には思考力・判断力・表現力等に課題が認められます。こうした課題は言語力に困難のある児童生徒にとってより顕著です。

そこで、本シンポジウムでは、多様な学びの基盤となる言語力のうち、特に読み書きに課題のある児童生徒の学びを保障するために何ができるかを、国内外における最新の知見を基に考えます。



Dr. Karen R. Harris
(カレン R. ハリス)
・アメリカアリゾナ州立大学 教授
・「作文のための自己調整方略開発」について講演していただきます。



Dr. Steve Graham
(スティーヴ・グレアム)
・アメリカアリゾナ州立大学 教授
・「読解のための作文に関する事実」について講演していただきます。



森田愛子先生
・広島大学大学院教育学研究科心理学講座 准教授
・「漢字の読み:音韻情報の役割」について講演していただきます。

日時

2014年12月15日(月) 17:00~20:00

会場

広島大学大学院工学研究院220講義室

プログラム(同時通訳付)

- 17:00-17:10 **主催者挨拶**
池野 範男(広島大学大学院教育学研究科教授 学習システム促進研究センター代表)
企画説明
川合 紀宗(広島大学大学院教育学研究科教授)
- 17:10-17:55 **Self-Regulated Strategy Development for Writing**
Dr. Karen Harris(Mary Emily Warner Professor, Mary Lou Fulton Teachers College, Arizona State University)
- 17:55-18:40 **Some Facts: Writing to Read**
Dr. Steve Graham(Mary Emily Warner Professor, Mary Lou Fulton Teachers College, Arizona State University)
- 18:40-18:45 **休憩**
- 18:45-19:30 **漢字の読み:音韻情報の役割**
森田 愛子(広島大学大学院教育学研究科准教授)
- 19:30-20:00 **指定討論**
川合 紀宗(広島大学大学院教育学研究科教授)

【参加費】無料 どなたでもご参加いただけます。

【参加申込】12月8(月)までに下記のところへお申し込みください(担当:特任助教 費 曉東)。

Mail: higyoto@hiroshima-u.ac.jp または Tel: 082-424-6872 (直通, 内線 6872)

【お問い合わせ】広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター 教授

川合 紀宗 (Mail: nkawai@hiroshima-u.ac.jp Tel: 082-424-7179)

International Joint Symposium

Education and Future of Asia



HIROSHIMA UNIVERSITY



Faculty of Education, Hiroshima University

College of Education, Seoul National University

Date: January 29th (Thursday) -30th (Friday) 2015

Venue: Faculty of Education, Hiroshima University (HU)

Participants: HU Professors

College of Education, Seoul National University (SNU) (14 People)

- Professors 12, Staff 2

Language: English, Korean and Japanese (consecutive interpreting)

Tentative AGENDA

Date/Time	Programs	Venue
January 29 th (Thursday) 2015		
09:30-12:00	Affiliated schools Visit	
12:00-14:00	Lunch and move to Hiroshima University	
14:00-18:00	Symposium <p style="text-align: right;">Moderator: Yasushi MARUYAMA, HU</p> <p>► Session 1</p> <p>Byung Min LEE, Prof. of English Language Education, SNU "English and English Education in Korea"</p> <p>Seiji FUKAZAWA, Prof. of English Language Education, HU "English Language Education in Japan: Teaching for Examination or Communication"</p> <p>Hee Min KIM, Prof. of Social Studies Education, SNU "Negative Voting in New Democracies: The Impact of Scandals on Voting Behavior in Korean Presidential Elections"</p> <p>Kenji TANAHASHI, Prof. of Social Studies Education, HU "The Citizenship of Japanese Youth from the viewpoint of International Standards: With Reference to the IEA's International Citizenship Study"</p>	Conf. Room 3/4

	Discussion	
	Coffee break	
	<p>► Session 2</p> <p style="text-align: right;">Moderator: SNU Professor Jaemyong RYU, Prof. of Geography Education, SNU</p> <p>“How to design locational context of the moment when learners experience knowledge”</p> <p>Kazuhiro KUSAHARA, Prof. of Social Studies Education, HU (with WATANABE, OSAKA AND KIM, Graduate Students)</p> <p>“Becoming a Teacher Educator of History-Geography Education through Teaching and Researching Pre-service Teachers”</p> <p>Oh Nam KWON, Prof. of Mathematics Education, SNU</p> <p>“Social Expectation for (Mathematics) Teacher Professionalization: Policy, Curricula, and National Employment Test”</p> <p>Masataka KOYAMA, Prof. of Mathematics Education, HU</p> <p>“Issues of Mathematics Curriculum and Mathematics Teacher Education in Japan”</p> <p>Discussion</p>	
18:00-21:00	Reception	La Boheme
January 30 th (Friday) 2015		
09:30-12:00	<p>Seminar: Prior Learning</p> <p>Organizer: Hiroshima University Commentator: Hee Min KIM, Prof. of Social Studies Education, SNU</p>	L205
	Lunch	

シティズンシップ教育国際 シンポジウム（概要）

主題：「道徳性」の視点から考えるシティズンシップ教育
ーグローバル化社会の中でシティズンシップ教育は判断や行動の規範をどのようにとらえるかー

日時： 2015年1月10日（土）10:00-17:00, 1月11日（日） 9:10-16:30

場所： キャンパスイノベーションセンター東京
〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
tel.: 03-5440-9020(受付) (<http://www.cictokyo.jp/access.html>)

主旨：

民主主義社会を支える市民としての資質をトータルに育くもうとするシティズンシップ教育にとって、道徳性の育成は最重要テーマの一つである。しかし、そのとらえどころの難しさもあって、これまであまり研究対象としては取り上げられてこなかった。当然のことながら、シティズンシップにおける道徳性は、シティズンシップそのものをどのようにとらえるかということに密接な関わりを持っている。もしもシティズンシップを歴史的に公民的共和主義的にとらえるならば、求められる道徳性も社会的・能動的なものになるだろうし、自由主義・個人主義的なものととらえるならば、それは個人的・自律的なものになるだろう。また、シティズンシップを空間的に欧米・中東・アジアという分け方をするならば、キリスト教やイスラム教、仏教・儒教といった宗教性を抜きにして道徳性は語れない。

今日、世界的なシティズンシップ教育のトレンドは多元性や多様性を重視する方向にあるものの、シティズンシップ教育における判断や行動の規範はどのような枠組みでとらえることができるのだろうか、すなわち、子どもたちが身につけるべき道徳性の内容には何が相応しいのだろうか、そしてそれはどのように教えられるべきなのだろうか。それらを二日間の討議を通じて、日本の道徳教育における今日的な動向を踏まえながら、グローバルな視野から検討する。

主催： 科研基盤研究(A)

「多様性と民主主義を視点としたシティズンシップ教育の国際比較研究」
(代表：池野範男 広島大学)

共催：平成25年度広島大学研究力強化事業・学習システム促進研究センター（RIDLS）

プログラム

2015年1月10日（土）

主題：「シティズンシップ教育では何を価値として取り上げるのか、その背景は何か」

時間	内容
9:30-10:00	受付
10:00-10:20	研究代表者挨拶, 主旨説明 (池野範男・水山光春)
10:20-12:00	セッション1 (紹介5分, スピーチ60分, 討論15分) 基調講演： 「徳の教育：シティズンシップ教育、人格教育、ボランティア教育」 講師：Tom Harrison (バーミンガム大学) 司会：水山光春
12:00-13:00	昼食

13:00-14:20	セッション2(紹介5分,スピーチ60分,討論15分) 講演:「道德教育は何を基盤とし,どのような価値を取り上げるのか」 —日本の道德教育改革の視点から— 講師:貝塚茂樹(武蔵野大学) 司会:桐谷正信
14:20-14:30	休憩
14:30-15:50	セッション3(紹介5分,スピーチ60分,討論15分) 講演:「日本におけるグローバルシティズンシップとアイデンティティ:道德教育を事例として」 講師:Marie Højlund Rorsgaard(コペンハーゲン大学) 司会:森茂岳雄
15:50-16:00	休憩
16:00-17:00	総合討論 主題:「シティズンシップ教育では何を価値として取り上げるのか,その背景は何か」 司会:谷口和也・桐谷正信
17:30-19:30	懇親会

2015年1月11日(日)

主題:「シティズンシップ教育では価値や道德性をどのように教えるか」

時間	内容
9:00-9:10	受付
9:10-10:30	セッション4(ワークショップ60分,討論20分) アクティビティ:「英国の人格教育は価値や道德性をどのように教えるか」 ファシリテーター:Tom Harrison(バーミンガム大学) アシスタント:谷口和也
10:30-10:40	休憩
10:40-12:00	セッション5(紹介5分,スピーチ60分,討論15分) 講演:「中国の学校教育において道德教育はどのように教えられているか」 講師:姜英敏(北京師範大学) 司会:森茂岳雄
12:00-13:00	休憩
13:00-16:00 (休憩適宜)	総合討論 主題:「シティズンシップ教育では価値や道德性をどのように教えるか」 1) 午前の議論の交通整理, 2) 1)をふまえたアクティビティのリフレクション(60分) —アクティビティを体験して何を学んだか,どう学んだか— 3) シティズンシップ教育育成論としてアクティビティから何をくみ取るか 4) 民主主義社会を支える価値は何か,それはどのように教えられるのか 司会:吉村功太郎・谷口和也
16:00-16:20	2日間の議論のまとめ(森茂岳雄・水山光春)
16:20-16:30	成果と課題,今後への展望(池野範男) 閉会

連絡先: 広島大学 池野範男 nikeno@hiroshima-u.ac.jp 携帯: 090-8067-6411

先行学習は生徒の「自ら学び自ら考える」力の発達を促すか 中学校社会科授業を事例として



鏑木 良夫 先生
光華小学校長

先行学習は、「予習あるいは授業冒頭で予備知識を与え、問題解決を確実にさせる学習」です。東京大学の市川伸一先生は、「教えて考えさせる授業」と呼んでいます。鏑木良夫先生は、授業に以下のような流れを作ることによって、低学力の子どもも含めたクラス全員の子どもの参加しやすい授業にしています。①予習内容の確認（予習内容を共書きと理解度評定）、②教師からの補説、③理解確認（確認小テストなど）、④活用課題、⑤自己評価。本ワークショップでは、鏑木良夫先生に、中学校社会科の授業を飛び込みでしていただき、そのような授業の流れが生徒の「自らの学び自ら考える」力にどのように効果があるのかを検討します。

鏑木良夫先生プロフィール

埼玉県の教員として主に理科授業研究に励み、中学校、小学校の校長を経て平成20年3月退職。平成19年にNHK番組「わくわく授業」で6年理科の授業が放映。現在、全国の小・中学校で「飛び込み授業」を実践。

著書

「教えて考えさせる先行学習で理科を大好きにする」（学事出版）「教えて考えさせる理科小学校」（図書文化）「わかる授業の指導案55」（芸術新聞社）など多数

三次中学校会場		広島大学会場	
<p>広島県三次市立三次中学校 広島県三次市三次町1731</p> <p>2015年1月29日(木)</p>		<p>広島大学大学院教育学研究科 L205 教室 広島県東広島市鏡山一丁目3番2号</p> <p>2015年1月30日(金)</p>	
4校時 (11:50-12:40)	鏑木先生 授業規律について	9:30-9:40	主催者挨拶
	公開授業・検討会	9:40-10:30	29日の社会科授業ビデオ視聴
5校時 (13:20-14:10)	2年A組 社会科授業 鏑木良夫先生	10:30-12:00	検討会
6校時 (14:20-15:10)	2年B組 社会科授業 竹村泰則先生		授業者(鏑木良夫先生)の解説
検討会 (15:20-16:30)	授業者(鏑木良夫先生)の解説①		社会科教育の立場からコメント
	授業者(竹村泰則先生)の解説②		広島大学教授池野範男先生
	質疑応答		韓国教育の立場からコメント
			ソウル大学教授 Heemin KIM 先生
			ワーキングメモリの観点からコメント
			広島大学助教水口啓吾先生

【申し込みの方法】1月24(金)までに下記へお申し込みください。なお参加は無料です。

三次中学校会場に参加希望の方:

☎:0824-62-2896 三次市立三次中学校 教務主任 竹村泰則

広島大学会場に参加希望の方:

Mail: higyoto@hiroshima-u.ac.jp ☎:082-424-6872 広島大学大学院教育学研究科担当助教 費曉東